

銀賞

五感

マツダ株式会社 本社工場

嶋崎 豊

ある日、先輩と工場内を何気ない会話をしながら移動していた時のこと。

「先輩、何か探し物ですか？」

先輩がキョロキョロと周囲を見ながら歩いている姿を見て、私はそう尋ねた。歩いていた場所は、私が所属する職場が管理している設備がある脇の通路で、先輩はこう答えた。

「オペレーターは移動中も常に点検しよるんよ。」

先輩は、職場の浴液管理オペレーターを担当しており、当時私は、その先輩からオペレーター業務を習っている時だった。

私の職場は、塗装工場の下地となる電着塗装を行っている。電着塗装を完成するまでに、ボディに付いている防錆油を落とす脱脂工程、耐食性や塗料との密着性を上げるための化成処理工程、塗膜を形成する電着工程、塗膜を焼き付ける乾燥工程、といった多数の工程がある。主に液体を扱う職場で、浴液管理オペレーターは、設備管理や薬液濃度コントロールなどを担当している。扱う薬品の中には、肌に直接触れると薬傷を起こす危険なものもあり、漏洩すれば環境事故にもなる。オペレーターは、品質はもちろん、気を緩めれば人体や環境にもリスクを伴う集中力が必要な仕事である。

オペレーターの1日の業務の中で設備の点検作業は、チェックシートには直1回（2回以上もある）となっており、習いたての私はそれに従い、1回見て管理基準内にあればよし、と判断していた。ある日、いつも通り定期点検を午前中に行った。問題なく作業を終え、午後から機器のメンテナンス作業を行っていたところ、先輩がやってきて、「品質不具合が出よるけど、設備でおかしいところない？」と尋ねてきた。私は、チェックシート通り各設備が基準内にあったと答えた。不具合の発生を調査する為、先輩と巡回にまわったところ、乾燥前に余分な塗料を洗い流す水洗工程で先輩は足を止めた。スプレーの吐出量が少ないことに先輩が気付いた。これが原因で、洗浄不十分による不具合を発生させていたのだった。

不具合が発生する前に気付けなかったのか、と問われ、私は午前に点検した

時は、基準内だったと答えた。気付くはずもない。私が見たのはポンプの吐出圧で、確かに値は基準内に入っていた。しかし、調べてみると、圧力計の不良でゲージの指針が反応しておらず、基準内に止まっていたのだった。吐出量が少なかったのは、配管内に汚れが堆積して詰まっていたのが原因だった。先輩曰く、気付いたポイントは、2つ。まず、スプレー吐出量の普段とのわずかな差。それと、ポンプのモーター音の違いだったそうだ。

私の点検は、チェックシートに沿って数値を記入するだけの作業だった。それに対し、先輩の点検方法は、五感を使い、小さな違和感にも気付けるとこだった。この時、先輩の「歩いている時も常に点検」をすることで些細な変化にも気付けるようになるのだと、その行動がやっと理解できた。それ以降、先輩のように五感も使って点検するように心掛け、【いつも】との間違い探しをしている。

冒頭の会話から7年経った。

ある日、後輩と会話しながら移動していた際に言われた。

「キョロキョロしてますけど、何か落としたんですか？」

無意識だったが、遠かった先輩の背中に少し近づけた気がした。